

ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム

- 第1回会合の概要について -

第1回(2月10日(火)) テーマ:「恋愛・結婚」

2月10日(火)に「恋愛・結婚(未婚化・晩婚化の要因分析と社会的な取組・課題の整理)」をテーマとして、山田昌弘氏(中央大学文学部教授)、三浦展氏(カルチャースタディーズ研究所)、金子隆一氏(国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長)からヒアリングを行なった。概要は以下の通り。

- ・従来の少子化対策は、結婚しているカップルを対象として、子どもを持つ希望の実現を阻害している要因を取り除き、その希望が実現できるようにすることが中心となっていた。しかし、そうした対策だけでは、少子化の傾向に歯止めをかけることは難しい。少子化の背景には未婚化や晩婚化、さらには非婚化があることによる。結婚しているカップルに関しては、従来の少子化対策が有効となるが、結婚まで至らない人が増えてきている。
- ・未婚化や晩婚化さらに非婚化の背景要因は多様であるが、非正規雇用の増大など若者の経済的基盤の不安定化、出会いの機会の減少、結婚に関する男女間の価値観の相違、コミュニケーション能力の低下、結婚に期待する効用の低下、劇的な出会いを求める「ロマンチックな恋愛観」などが指摘された。
- ・こうした現状への政策的な対応としては、新しい出会いの場を作る、コミュニケーション能力を高める、カウンセラーがアドバイスを行うなど「婚活」を支援することなど考えられる。しかし、国などがこうした政策的な支援を行うことに関しては、若者を含めて国民の間に十分な合意ができていないのが現状である。他方で、こうした状況を放置しては未婚化や晩婚化の解消が難しいことも事実である。そのため未婚化や晩婚化の現状や背景要因に関して広く議論を行い、若者を含め国民の多くにその重要性を理解してもらうことが先決となる。そこから新しい少子化対策の一步が始まる。